

# 趣味のピアノ・楽譜教本

## 埴生の宿

本教材では、模範演奏の音とテキストを併用して進めていきます。模範演奏の音は、ダウンロードされた場合、各音楽ファイルに、物販でご購入された場合には、CD に含まれています。このテキストの説明と楽譜をご覧になりながら練習を進め、模範演奏の音を聴いて、曲のイメージや正しく弾くことができているか確認をするようにいたしましょう。

# 模範演奏の音について



この教材に付録しています模範演奏の音は、以下の通りです。CDの場合には、以下の順番に音が収録されています。ダウンロード版の場合、括弧内に書いてありますファイル名になります。PCの設定によっては、ファイル名の拡張子部分(.wma)は表示されません。この音楽ファイルは、Windows Media Player で再生することができます。

1. 曲全体を通した模範演奏。通常の時速 (全体通し.wma)
2. 曲全体を通した模範演奏。ゆっくりの時速 (全体ゆっくり.wma)
3. ① の区分、右手のみ (①右手.wma)
4. ① の区分、左手のみ (①左手.wma)
5. ① の区分、両手 (①両手.wma)
6. ② の区分、右手のみ (②右手.wma)
7. ② の区分、両手 (②両手.wma)
8. ③ の区分、右手のみ (③右手.wma)
9. ③ の区分、両手 (③両手.wma)
10. ④ の区分、右手のみ (④右手.wma)
11. ④ の区分、両手 (④両手.wma)
12. ⑤ の区分、右手のみ (⑤右手.wma)
13. ⑤ の区分、左手のみ (⑤左手.wma)
14. ⑤ の区分、両手 (⑤両手.wma)
15. ⑥ の区分、左手のみ (⑥左手.wma)
16. ⑥ の区分、両手 (⑥両手.wma)

なお、「② の区分、左手のみ」など、収録されていない部分がありますが、これらの部分は、他の部分とまったく同じであるためです。① から ⑥ の区分の説明と共に、本文の説明をご参照ください。



# 「埴生の宿」



「埴生の宿」は、映画「ビルマの豎琴」で有名になった曲です。

この曲では、曲の途中で両手とも、手の位置が変わります。そのため、指番号と音(ドレミ)は、必ずしも一致しません。また、左手は、ほとんど8分音符で書かれていますので、音符の多さに始めは驚かれるかもしれません。しかし、音の組合せの種類は、以下の3種類のみです。「自宅でできる はじめてのピアノレッスン」の教材を修了された方の場合、これらの音の組合せは、和音という形でステップ4の「聖者の行進」で出てきたものと全て同じになります。8分音符で同時に弾くわけではありませんので、弾き方は異なりますが、弾く鍵盤は限られますので、気持ちを楽にして進めていきましょう。



左手は、この3種類の組合せしか出てこない

音符と休符については、以下の表にまとめています。以下の全ての音符や休符が「埴生の宿」で出てくるわけではありませんが、一般的によく出てくる音符や休符ですので、覚えておきましょう。

音符	呼び方	意味	休符	呼び方	意味
	全音符	4拍伸ばす		全休符	4拍休み
	付点2分音符	3拍伸ばす	付点2分休符は、ほとんど使われていない		
	2分音符	2拍伸ばす		2分休符	2拍休み
	付点4分音符	1拍半伸ばす	付点4分休符は、ほとんど使われていない		
	4分音符	1拍伸ばす		4分休符	1拍休み
	8分音符	半拍伸ばす		8分休符	半拍休み

# ピアノを弾く前に



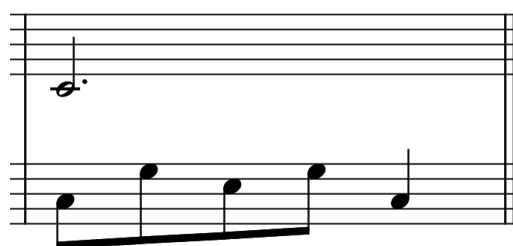
この曲は、弾き始めが特殊な形になっています。通常は1拍目から弾きますが、この曲は4拍目から弾き始めます。最初の小節を見ますと、4分の4拍子なのに、4分音符が1つしかありません。逆に、最後の小節は、3拍分しかありません。このような曲の場合、最初の音は、1拍目からではなく、足りない3拍は休みとして、4拍目から弾くことになります。一般的に、このような曲をアウフタクトの曲と呼び、拍子が全て入っていない小節を、不完全小節と言います。アウフタクトは、言語における冠詞や前置詞のようなものですが、クラシック音楽では、このような始まり方をする曲が比較的多くあります。

最初の小節



4分の4拍子なので、4分音符が4拍分入らないといけませんが、1拍分しかない

最後の小節



4分音符が4拍分入らないといけませんが、3拍分しかない

合計すると、4拍になる

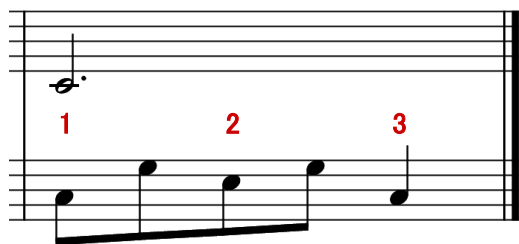
このような曲の解釈は、以下ようになります。

休符を補って見るようにする



曲の始めでは、足りない3拍は休みとして先に数え、4拍目にドの音を弾きます。

その後は、通常の4分の4拍子で弾いていきます。



最後の小節では、3拍目を数え終わったら音を切ります。長すぎないように注意します。

4拍目はありません。

## 練習の進め方：


練習を始める前に、曲がどのように作られているのかという構成を見ることが大切になってきます。曲の構成を見することで、短時間で効率のよい練習をすることが出来ます。

この曲は、次ページに示しますように、① から ⑥ の 6つの区分に分けることができます。それぞれの区分を見比べますと、以下のようなことがわかります。

- 区分 ① と 区分 ② は、ほとんど同じ
- 区分 ③ と 区分 ④ は、ほとんど同じ
- 区分 ⑤ は、新しいメロディー
- 区分 ⑥ は、区分 ④ と全て同じ（最後の左手の音だけが異なる）

以上のことから、練習の進め方としては、以下のような進め方が効率的であることがわかります。

1. 最初に区分 ① を練習する
2. 区分 ② は、① と違うところを見つけて、その部分だけを練習する
3. 区分 ③ を練習する
4. 区分 ④ は、区分 ③ と違うところを見つけて、その部分だけを練習する
5. 区分 ⑤ を練習する
6. 区分 ⑥ は、区分 ④ と同じなので、最後の左手の音だけを確認する

このように見ていきますと、長いと思われる曲でも、練習する部分は半分以下になり、気分的にも楽になります。また、楽譜全体を眺めると、左手に  という形がたくさんある事が分かります。これは、左手は最初から最後まで、同じリズムで弾くということになりますので、音を出すタイミングは常に同じです。

特に、区分で見ていきますと、左手部分は、区分 ① から区分 ④ まで、まったく同じで、区分 ⑥ も最後の音が違う以外は、区分 ① から ④ と同じです。そのため、左手部分は、区分 ① から ④ および ⑥ で使用されるパターンと、区分 ⑤ のパターンを覚えてしまえば、比較的簡単に習得することができます。

以上のことから、この曲の場合、左手を先に練習してリズムを覚えてしまい、その後、右手の練習、両手の練習と進めていくと効率的に練習をすることができます。

この曲の練習をする区分を、確認しましょう。

## 埴生の宿

ビショップ 作曲

### 区分①

Handwritten musical notation for the first section of the piece. It consists of two staves, treble and bass, in 4/4 time. The melody is written in the treble staff with fingerings 1, 3, 4, 5, 3, 5, 4, 3, 4, 2. The bass staff has a continuous eighth-note accompaniment with fingerings 5, 1, 3, 1, 5, 1, 2, 1, 5, 1, 3, 1, 5, 1, 3, 1. A red bracket on the right side of the first staff indicates the end of the section.

### 区分②

Handwritten musical notation for the second section of the piece. It consists of two staves, treble and bass, in 4/4 time. The melody is written in the treble staff with fingerings 3, 1, 3, 4, 5, 3, 5. The bass staff has a continuous eighth-note accompaniment with fingerings 5, 1, 3, 1, 5, 1, 3, 1, 5, 1, 2, 1, 5, 1, 3, 1. A red bracket on the right side of the second staff indicates the end of the section.

### 区分③

Handwritten musical notation for the third section of the piece. It consists of two staves, treble and bass, in 4/4 time. The melody is written in the treble staff with fingerings 4, 3, 4, 2, 1, 2, 5, 4, 3, 2. The bass staff has a continuous eighth-note accompaniment with fingerings 5, 1, 3, 1, 5, 1, 3, 1, 5, 1, 3, 1, 5, 1, 2, 1. A red bracket on the right side of the third staff indicates the end of the section.

### 区分④

Handwritten musical notation for the fourth section of the piece. It consists of two staves, treble and bass, in 4/4 time. The melody is written in the treble staff with fingerings 2, 1, 5, 4, 3, 4, 2, 3, 2. The bass staff has a continuous eighth-note accompaniment with fingerings 5, 1, 3, 1, 5, 1, 3, 1, 5, 1, 3, 1, 5, 1, 3, 1. A red bracket on the right side of the fourth staff indicates the end of the section.

5 4 3 2 1 5 4 3 4 2

5 1 3 1 5 1 2 1 5 1 3 1 5 1 3 1

区分 ⑤

1 5 3 4 2

5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 3 1

区分 ⑥

1 2 1 3 2 5 4 3 2

5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 2 1

2 1 5 4 3 4 2 1

5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 3 1 5

# ① ② を弾きましょう



区分 ① と区分 ② の練習をしましょう。

区分 ① と区分 ② は、左手は全く同じです。また、右手も最後の音が異なるだけですので、一度に練習をすることができます。それぞれ、左手、右手の練習のポイントは、以下の通りです。

左手の練習：

- ・ 8分音符しか出てきません。このように同じ種類の音符が並んだ伴奏の場合、だんだん速くなったり、遅くなったりすることがよく起こります。後の両手の練習で、始めはかなりゆっくりな速さで合わせると思いますが、それを考慮して、少しゆっくりな速さで、その速さを守りながら弾くように心がけて下さい。
- ・ 3種類のパターン(ドミソ、ドファラ、シレソ)が出てきます。手の動きは、隣の鍵盤に指を動かすだけです。ほとんどその場で弾く事ができます。手を必要以上に動かすすぎないように注意しましょう。

右手の練習：

- ・ 付点4分音符と8分音符がたくさん出てきます。長さを守り、拍子にあわせて正しいリズムで弾きましょう。

両手の練習：

- ・ この曲の場合、左手のみ、または右手のみであれば、比較的簡単に弾けると思いますが、両手を組み合わせたところで、タイミングの取り方が難しくなります。特に、曲の弾き始め部分でつまづく方が多いので、練習のコツをご紹介します。

右の図に示しました曲の出だし部分ですが、2小節目で、右手は付点4分音符と8分音符、左手は全て8分音符です。この部分で、右手と左手の8分音符を同時に弾くタイミングを合わせるのが最初は難しいと思います。しかも、左手も右手も音が次々と変わっていきます。

このような場合、曲を最小の単位に分けて、まずはそれぞれの単位の練習をすると効果的です。この曲の場合、①と②に分けて、それぞれの練習をタイミングが合うようになるまで行います。それぞれの単位が完成したら、次に、最初から2小節目までを通した③の部分で弾く練習をします。

また、1段目の4小節目では、今度は4分音符と8分音符の組合せが出てきます。8分音符どうしを合わせるタイミングに慣れていいますと、ここでまたタイミングが合わなくなりがちですので、この部分の部分練習も行うようにいたしましょう。

両手で揃えて弾く



# 埴生の宿

バラバラになりやすいので注意

ビショップ 作曲

4拍目から弾き始める

両手で揃えて弾く

区分①

First system of the musical score. The treble clef staff has a 4/4 time signature. The first measure has a circled note with a '1' above it. The second measure has a '3' above it. The third measure has a circled note with a '4' above it. The fourth measure has a circled note with a '5' above it. The fifth measure has a '3' above it. The sixth measure has a '5' above it. The seventh measure has a circled note with a '4' above it. The eighth measure has a circled note with a '3' above it. The ninth measure has a circled note with a '4' above it. The tenth measure has a circled note with a '2' above it. The bass clef staff has a red box around the first four measures, with fingerings 5 1 3 1, 5 1 2 1, 5 1 3 1, and 5 1 3 1 written below. Arrows point from the text '両手で揃えて弾く' to the first and fourth measures of the bass staff.

区分②

音の組合せが次々変わるので注意

Second system of the musical score. The treble clef staff has a circled note with a '3' above it. The second measure has a circled note with a '1' above it. The third measure has a '3' above it. The fourth measure has a circled note with a '4' above it. The fifth measure has a circled note with a '5' above it. The sixth measure has a '3' above it. The seventh measure has a '5' above it. The bass clef staff has a red box around the first four measures, with fingerings 5 1 3 1, 5 1 3 1, 5 1 2 1, and 5 1 3 1 written below. Arrows point from the text '音の組合せが次々変わるので注意' to the first and fourth measures of the bass staff.

両手で揃えて弾く

Third system of the musical score. The treble clef staff has a circled note with a '4' above it. The second measure has a circled note with a '3' above it. The third measure has a circled note with a '4' above it. The fourth measure has a circled note with a '2' above it. The fifth measure has a circled note with a '1' above it. The bass clef staff has a red box around the first four measures, with fingerings 5 1 3 1, 5 1 3 1, 5 1 3 1, and 5 1 3 1 written below. Arrows point from the text '両手で揃えて弾く' to the first and fourth measures of the bass staff.

3拍しっかり伸ばす

バラバラになりやすいので注意

## ③ ④ を弾きましょう



区分 ③ と区分 ④ の練習をしましょう。

左手部分は、区分 ① や ② と全く同じですので、左手部分の練習は省略することができます。また、右手も、区分 ③ と区分 ④ で、最後の音が異なるだけですので、一度に練習をすることができます。練習のポイントは、以下の通りです。

右手の練習：

- ・ 小節の途中で、手の位置が変わります。見落さないようにしましょう。指番号を見ないで進みますと、途中で指が足りなくなりますので注意してください。

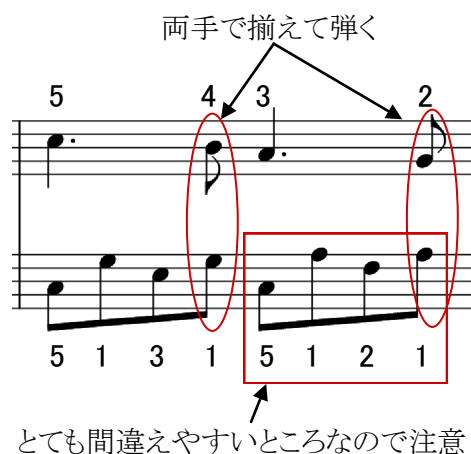
特に、右の図に示しました4段目の1小節目で、ミからソの音に移るところ、2つ横の鍵盤ですが、1の指(親指)から、5の指(小指)に移ります。かなり手の平を縮めた形で弾くこととなりますが、ここで使う指を間違えますと、その後指が足りなくなってしまうので、指番号を意識するだけでは、音を間違えてしまいますので、指番号と手の形、この2つを意識して弾きましょう。



両手の練習：

- ・ 区分 ③ と区分 ④ の弾き始めは、間違えやすいところですので、注意しましょう。基本的に、右手と左手で、8分音符のタイミングを合わせて弾くところは、区分 ①、② のときと同じですが、右手で弾くメロディーが、区分 ①、② と異なりますので、混乱しやすくなります。

特に、この小節の最後のソ(右手)とラ(左手)の組合せは、あまりきれいな音の組合せではなく、直前までドミソのパターンを弾いていたこともあり、左手がラではなく、ソを弾いてしまう間違いも発生しやすくなりますので、この部分の部分練習をするようにしましょう。



両手で揃えて弾く

区分 ③

指番号を守って弾く

手を縮めて

区分 ④

とても間違えやすいところなので注意

2 5 4 3 2

5 1 3 1 5 1 2 1

1 5 4 3 4 2 3

5 1 3 1 5 1 2 1

1

5 1 3 1

## ⑤ ⑥ を弾きましょう



区分 ⑤ と区分 ⑥ の練習をしましょう。

区分 ⑤ は、両手共に、これまでの区分と異なっています。そのため、左手、右手、両手の順番で練習をしていきましょう。区分 ⑥ は、区分 ④ と同じで、左手の最後の小節のみが異なるだけですので、その部分を確認しておきます。練習のポイントは、以下の通りです。

左手の練習：

- ・これまでのリズムと若干異なりますが、3種類のパターン(ドミソ、ドファラ、シレソ)のみですので、比較的簡単に進めることができると思います。
- ・区分 ⑥ の最後の小節は、3拍目までとなります。4拍目はありません。最後の音が長くなりすぎないように注意しましょう。

右手の練習：

- ・一度に2つの音を弾くところが出てきます。バラバラにならないように、揃えて弾きましょう。

両手の練習：

- ・区分 ⑤ の以下の部分は、左手の音の組合せが次々に変わり、右手も2つの音を揃えて弾きますので、難しくなります。この部分も、何度か部分練習を行いましょう。



指番号を守って弾く

難しいところ。部分練習を

区分 ⑤

区分 ⑥

4拍目はないので、長すぎないように

5 3 4 2

5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 2 1

1 2 3 2 5 4 3 2

5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 3 1 5

# 全体を通して弾きましょう



この曲をスムーズに弾くためのポイントをいくつかご紹介します。

## 1. 徐々につなげていきます

この曲では、6つの区分に分けて練習をしてきました。これを、いきなり全部通した練習をしないで、徐々につなげて、最終的に全部をつなげて弾けるようにしていきましょう。こうすることで、スムーズに弾けるところと弾けないところが把握しやすくなり、より短時間で効果的な演習計画を立てられますし、最終的に早くひけるようになります。

- 1) 区分 ① ② をつなげて練習をする
- 2) 区分 ③ ④ をつなげて練習をする
- 3) 区分 ⑤ ⑥ をつなげて練習をする
- 4) 区分 ① ② ③ ④ をつなげて練習をする
- 5) 区分 ③ ④ ⑤ ⑥ をつなげて練習をする
- 6) 全部を通して練習する


## 2. 右手と左手の合わせ方に慣れる

右の図のようなリズムがたくさん出てきます。慣れて楽に弾けるようにしましょう。また、このリズムが2回並んで出てくるところがいくつかあります。その際に、1回目の最後の両手で合わせて弾くところを、あまりに意識しすぎますと、その音だけが強くなったり、また次の音が遅れて、間がいたりしますので気をつけましょう。



1回目の両手で合わせて弾くところ

## 3. 常に一定の速さを守る

この曲は、左手の伴奏が  という形だけで作られています。このように、常に同じリズムで弾く伴奏は、音さえ把握できますとそんなに難しくはないと思います。しかし、慣れてきた頃に、気がつかないうちに、だんだんと速くなってしまい、慣れて簡単なはずなのに間違えてしまうということが起こります。しっかりと速さのコントロールを意識しながら弾きましょう。そのためには、時々左手だけの練習をして、速さの確認をすると効果的です。

## MEMO





# 埴生の宿

ビショップ 作曲

1 3 4 5 3 5 4 3 4 2

5 1 3 1 5 1 2 1 5 1 3 1 5 1 3 1

3 1 3 4 5 3 5

5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 2 1 5 1 3 1

4 3 4 2 1 2 5 4 3 2

5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 2 1

2 1 5 4 3 4 2 3 2

5 1 3 1 5 1 3 1 5 1 3 1



First system of musical notation. The treble staff contains a half note G4 (fingering 5), a quarter note F#4 (fingering 4), a quarter note E4 (fingering 3), and a quarter note D4 (fingering 2). The bass staff contains a continuous eighth-note pattern: G3, A3, B3, C4, D4, E4, F#4, G4. The system concludes with a repeat sign.

Second system of musical notation. The treble staff contains a half note G4 (fingering 1), a whole rest, and a half note G4 (fingering 5). The bass staff continues the eighth-note pattern. The system concludes with a repeat sign.

Third system of musical notation. The treble staff contains a half note G4 (fingering 1), a half note G4 (fingering 2), a half note G4 (fingering 3), and a quarter note F#4 (fingering 2). The bass staff continues the eighth-note pattern. The system concludes with a repeat sign.

Fourth system of musical notation. The treble staff contains a half note G4 (fingering 2), a quarter note F#4 (fingering 1), a quarter note E4 (fingering 5), a quarter note D4 (fingering 4), a quarter note C4 (fingering 3), a quarter note B3 (fingering 4), a quarter note A3 (fingering 2), and a half note G4 (fingering 1). The bass staff continues the eighth-note pattern. The system concludes with a final double bar line.

## 埴生の宿 (音の名前入り)

ビショップ 作曲

ド ソ ミ ソ ド ラ ファ ラ ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ シ ソ レ ソ シ ソ レ ソ

ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ ドラ ファラ ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ

ファ ミ ファ レ ド ソ ド シ ラ ソ

シ ソ レ ソ シ ソ レ ソ ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ ド ラ ファ ラ

ソ ミ ソ ファ ミ ファ レ ミ ソ

ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ シ ソ レ ソ シ ソ レ ソ ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ

ド シ ラ ソ ソ ミ ソ ファ ミ ファ レ

ド ソ ミ ソ ド ラ ファ ラ ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ シ ソ レ ソ シ ソ レ ソ

ド ソ ミ

ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ シ ソ レ ソ シ ソ レ ソ

ド レ シ ミ ソ ド シ ラ ソ

ド ソ ミ ソ シ ソ レ ソ ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ ド ラ ファ ラ

ソ ミ ソ ファ ミ ファ レ ド

ド ソ ミ ソ ド ソ ミ ソ シ ソ レ ソ シ ソ レ ソ ド ソ ミ ソ ド

## MEMO

